

環境報告書

Environmental Report

2016



Communication for Health

株式会社 エスアールエル

CONTENTS

企業理念	2
環境方針	3
社長メッセージ	4
環境影響	5
2015年度 環境への取り組み	6
TOPICS 2015年度 EMS活動	12
ISO14001 認証事業所MAP	13
編集後記	14

「環境報告書 2016」は、以下の内容に準拠し、作成しています。

準拠するガイドライン：本報告書は、「環境報告書ガイドライン（2012年版）」（環境省発行）に準拠しています。

報告対象期間：2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）

対象組織の範囲：検査ラボラトリーおよび営業拠点を含む全事業所の環境関連データを収集し、掲載しています。



『健康で豊かな社会づくりに貢献する』

エスアールエルグループの求める5つの価値

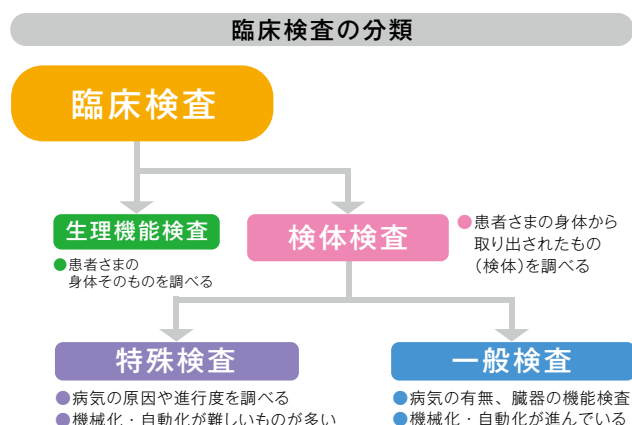
- 〔顧客本位〕 私たちは、常にお客さまの視点を重視したサービスを開発し、提供します。
- 〔品質主義〕 私たちは、あらゆる活動において、限りなく品質の向上を追求します。
- 〔情報重視〕 私たちは、さまざまな情報や情報システムを活用することで、新しい価値を生み出します。
- 〔標準志向〕 私たちは、健康を願うすべての人々に、標準となるような優れたサービスを開発し提供します。
- 〔個の尊重〕 私たちは、お客さま、従業員、一人ひとりを尊重し、個々の可能性を信じて活動します。

会社概要

社名	株式会社エスアールエル
設立	1970年（昭和45年）6月16日
本社	〒163-0409 東京都新宿区西新宿二丁目1番1号 TEL:03-6279-0900（大代表）
代表者名	代表取締役社長 東 俊一
資本金	11,027 百万円（2016 年 3 月 31 日現在）
事業内容	受託臨床検査事業
事業所	八王子ラボラトリー等の主要ラボラトリーおよび営業拠点
従業員数	2,240 名（2016 年 3 月 31 日現在）

エスアールエルグループが受託する臨床検体検査

臨床検査とは、診療を目的に患者さまの身体をさまざまな方法で病気の有無等を調べる検査です。臨床検査には、生理機能検査と検体検査があり、エスアールエルグループは、検体検査全般のアウトソーシングを承っており、なかでも特殊検査に強みをもっております。



環境方針

エスアールエルグループ環境保全推進宣言

エスアールエルグループは、地域の環境保全はもとより、広く地球環境の保全が人類ならびに地球上の生物にとって重要な課題であることを認識します。

また、環境負荷の少ない持続可能な社会システムづくりが経営において重要な課題であることを認識して、環境に配慮した事業活動を推進します。

事業に関わる省エネ・省資源・廃棄物削減の推進を通して、より良い地球環境の実現に向けた活動に取り組んでいきます。

エスアールエル環境方針

エスアールエルの環境活動の指針である環境方針は、2011年にISO14001の全社認証取得を機に、内容を明快・簡潔なものに刷新いたしました。

エスアールエルは、あらたな環境方針のもと、省エネ・省資源活動の目標に向け挑戦しております。

環境配慮

私たちは、環境に配慮した事業活動を目指し、人と環境に優しい検査サービスや製品を社会に提供いたします。

省エネ・省資源

私たちは、あらゆる活動において、省エネ、省資源行動をおこない、限りある資源を有効に活用します。

汚染の予防

私たちは、化学物質の適正管理、廃棄物の適正分別・リサイクルを推進し、汚染の予防に努めます。

法規制遵守

私たちは、適用を受ける環境に関する法規制・条例・地域協定など、要求事項を明確にし、遵守します。

EMSの改善・向上

私たちは、環境活動の目的・目標を定め、定期的に見直し、環境活動の継続的な改善を図ります。

社長メッセージ

企業のあるべき姿として、
環境保全活動に積極的に取り組むことで
社会的責任を果たしてまいります。

創業以来、エスアールエルは「健康で豊かな社会づくりに貢献する」という企業理念のもと、受託臨床検査事業を中心に活動を進めてまいりました。

現在の地球環境問題は、地球温暖化による異常気象や自然災害のみならず、生物多様性の喪失、水資源の枯渇など多面的に顕在化してきており、人類における経済活動や持続的な営みにまで影を落とし始めております。

エスアールエルでは、このような問題に対して、積極的に環境保全活動に取り組んでおり、今後もより一層の努力をし、社会的責任を果たしてまいります。

エスアールエルでは、ISO14001 認証を全社で取得してから丸5年間、環境保全活動に全社を挙げて取り組んでまいりました。その活動も本業活動の中に融合する形で実施されてきたと実感しております。

2017年度には、ISO14001:2015 規格への認証変更も実施し、より広い視野で各ステークホルダーと協調しながら、環境保全活動に取り組み、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

本報告書が、私たちの取り組みをご理解いただけるための一助となりましたら幸甚です。

代表取締役社長

東 俊一



環境影響

エスアールエルの 事業活動と環境への影響

エスアールエルの事業活動を通じ、全事業所の環境影響を把握し、環境保全に配慮した活動を展開しています。インプット、アウトプットの環境影響に対し、省エネルギー活動、廃棄物の削減、紙のリサイクルを推進することで、環境負荷の低減を目指してまいります。

●エスアールエル全社 2015 年度 環境影響データ

IN PUT

各種エネルギー・消耗品

電気使用量	32,017 千 kWh	重油使用量	21kL
都市ガス使用量	993 千㎡	上水道使用量	175 千㎡
LPG（プロパンガス）使用量	935kg	試薬の使用	
ガソリン使用量	1,780kL	検体の使用	
灯油使用量	83kL	検査消耗品の使用	
軽油使用量	36kL	事務消耗品の使用	

事業活動の流れ

【検体の集荷】



お客様の医療施設から検体をお預かりします。

【検体の仕分】



各ラボラトリーにて検体を検査単位に仕分けします。

【検査】



各ラボラトリーにて検体を検査します。

【検査結果の報告】



検査結果をお届けします。

OUT PUT

CO₂ 排出量(各種エネルギーからの排出)・廃棄物量

CO ₂ 排出量	23,409t-CO ₂	一般廃棄物	458t
排水量	172 千㎡	産業廃棄物	952t
紙リサイクル	486t	特別管理産業廃棄物	729t

2015 年度 環境への取り組み

環境教育の実施

全構成員には、「環境方針」をはじめ、EMS活動の取り組み意義、環境法規制など、環境の幅広い教育を毎年5月に新たな内容で実施しています。2015年度は、EMSシステム文書の説明や省エネルギー法、東京都地球温暖化対策も含め、教育を実施しました。

環境情報の共有化

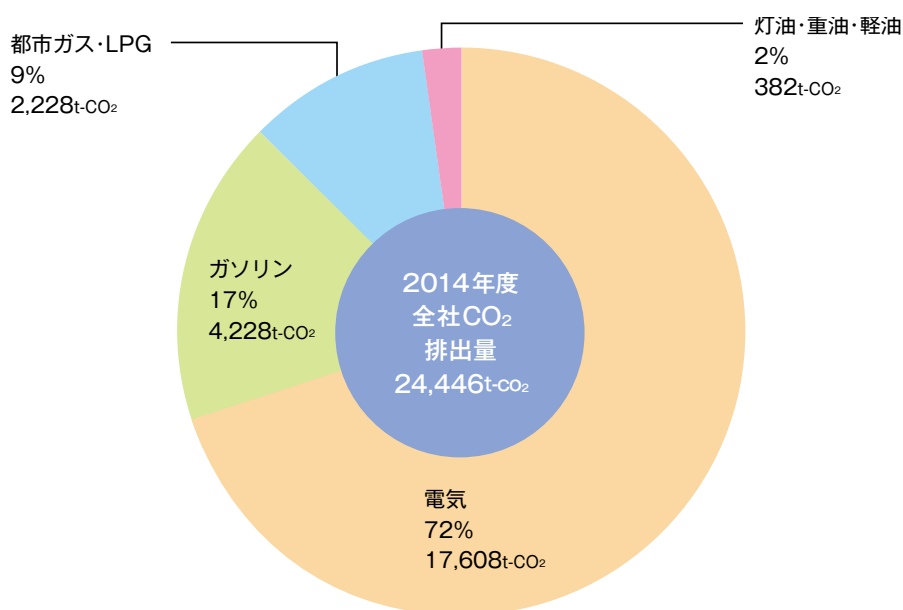
全社への情報展開・共有化のため、社内ネット上に「環境掲示板」を開設しています。2015年度は、各部署の「目的・目標」のほかに、公益財団法人主催の「エコドライブ活動コンクール」情報・「エコドライブマニュアル」を掲示し、情報の共有化に活用しました。

エネルギー使用量の削減

2015年度のEMS活動の開始にあたり、2014年度的全社エネルギー使用量を、CO₂排出量に換算して使用状況を調査しました。内訳として、CO₂排出量の89%が電気・ガソリン使用（社有車）によるものであり、CO₂排出量の削減のため2015年度も引き続き、エネルギー使用量の削減を環境負荷軽減の課題として取り組みました。

① 電気使用量の削減【全社共通目標】(p7)

② 車両燃費の向上【営業共通目標】(p8)



2015 年度 環境への取り組み

① 電気使用量の削減 【全社共通目標】

電気使用量の削減は、「電気使用量（原単位）前年度比 1%削減」を目標として取り組んできました。2014 年度の電気使用量は、原単位で前年度比 3.4%の削減となり、1%削減の目標を達成することができました。

2015 年度は、2014 年までの設備投資の削減効果と各部署では運用対策を引き続き実施しました。

2015 年度の電気使用量の結果は、原単位で対前年度比 3.6%の削減となり目標は達成いたしました。

<2015 年度の対策>

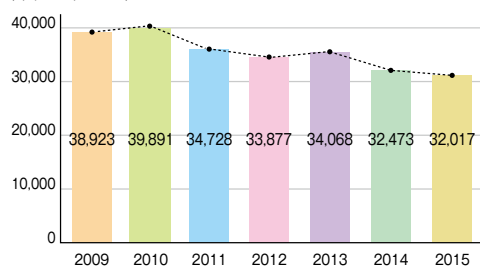
対 策	アイテム	実施内容
運用対策	OA 機器の節電	OA 機器のモニター電源オフの実施【継続】
	空調の運用	空調設定温度の徹底【継続】 夏期：従来設定温度より 2℃アップ、冬期：2℃マイナス
	照明の節電	照明の間引き、昼休み・無人スペースの消灯【継続】 本社専有事務エリアの照明を 19：00 に消灯
	その他	クールビズの早期開始（5月～10月）【継続】 ウォームビズの導入（11月～翌年3月）【継続】
設備対策	照明の改善	外灯の LED 化【MUQS ラボ】
	空調の改善	クーリングタワーファンのインバーター化【第 3 八王子ラボ】

項 目	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
原単位	0.02805	0.02839	0.02453	0.02338	0.02336	0.02256	0.02175
対前年比	—	1.2% 増	13.6% 減	4.7% 減	0.1% 減	3.4% 減	3.6% 減
評 価	—	未達成	達 成	達 成	未達成	達 成	達 成

原単位：電気使用量原油換算値／報告テスト数

<電気使用量の年間比較>

(単位：千 kWh)



(単位：千 kWh)

項 目	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
電気使用量	38,923	39,891	34,728	33,877	34,068	32,473	32,017
対前年度比	—	2.5% 増	12.9% 減	2.5% 減	0.6% 増	4.7% 減	1.4% 減

② 車両燃費の向上 【営業共通目標】

車両燃費の向上は、「前年度比 1% 向上」を目標として取り組んできました。2015 年度は、2014 年度に引き続き、公益在団法人主催の「エコドライブ活動コンクール」に参加しました。2015 年度は、2014 年度に実施の「エコドライブポスター」の配布等の施策を継続で実施し、啓蒙活動にも努めました。エコカーについては、入れ替え対象車の 100% をエコカーに入れ替える中で、走行距離に応じた車種として、ディーゼル車の導入もしており、省エネ、省 CO₂ 排出に役立っています。なお、導入されたエコカーの 99.9% には衝突回避システムを搭載し、事故による環境影響の予防に役立っています。

<2015 年度の対策>

対 策	アイテム	詳細
運用対策	エコドライブ活動コンクールへの参加・啓蒙活動	エコドライブ活動コンクール参加による、エコドライブの意識づけとポスター配布による啓蒙活動
設備対策	低燃費車両への切替え	リースアップ時に、低燃費車両への優先切替え 走行距離が多い車両へのディーゼル車の導入

(単位: km/L)

項 目	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
燃 費	14.0	14.1	14.0	14.5	15.1	15.7
対前年比	—	0.7% 向上	0.7% 低下	4.0% 向上	4.1% 向上	4.0% 向上
評 価	—	未達成	未達成	達 成	達 成	達 成

全社 CO₂ 排出量

2015 年度の CO₂ 排出量は、対前年度比 4.2% の削減となりました。CO₂ 排出量の削減は、改善活動（電気使用量の削減、車両燃費の向上）によりエネルギー効率は向上しています。また電力会社の CO₂ 排出係数^{*}の変動も関係しています。

(単位: t-CO₂)

項 目	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
CO ₂ 排出量	23,863	21,005	23,574	25,541	24,446	23,409
対前年比	—	12% 削減	12.2% 増加	8.3% 増加	4.3% 削減	4.2% 削減

<電力会社別 CO₂ 排出係数>

(単位: t-CO₂/kWh)

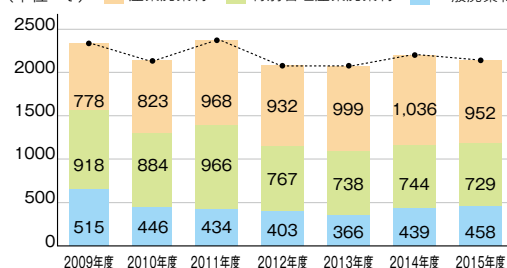
電力会社	北海道電力	東北電力	東京電力	中部電力	北陸電力	関西電力	中国電力	四国電力	九州電力	沖縄電力
2015 年度	0.000683	0.000571	0.000505	0.000497	0.000647	0.000531	0.000706	0.000676	0.000584	0.000816
2014 年度	0.000678	0.000591	0.000530	0.000513	0.000630	0.000522	0.000719	0.000699	0.000613	0.000858
2013 年度	0.000688	0.000600	0.000525	0.000516	0.000663	0.000514	0.000738	0.000700	0.000612	0.000903
2012 年度	0.000485	0.000547	0.000464	0.000518	0.000641	0.000450	0.000657	0.000552	0.000525	0.000932

※CO₂ 排出係数: CO₂ の排出量を算出する際に用いる係数

廃棄物の削減

廃棄物の排出量は、前年度を超えないことを目標としており、2015 年度は、前年度比 3.6% 減となりました。

(単位: t) 産業廃棄物 特別管理産業廃棄物 一般廃棄物



(単位: t)

項 目	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
廃棄物量	2,153	2,368	2,102	2,103	2,219	2,139
前年度比	—	10.0% 増	11.2% 減	増減なし	5.5% 増	3.6% 減

2015年度 環境への取り組み

行政への報告

(1)省エネルギー法(対象：全事業所)

①エネルギー使用状況(原単位報告)

項 目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
原単位	0.03311	0.03340	0.02885	0.02741	0.02734	0.02602	0.02506
対前年度比	—	0.9%増	13.6%減	5.0%減	0.3%減	4.8%減	3.7%減

原 単 位：原油換算値 / 報告テスト数

努力義務：原単位前年比1%以上削減

②温室効果ガス排出量の状況

(単位：t-CO₂)

項 目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
CO ₂ 排出量	20,058	19,090	16,323	19,079	21,297	20,124	19,219
対前年度比	—	4.8%減	14.5%減	16.9%増	11.6%増	5.5%減	4.5%減

(2)東京都地球温暖化対策

①第2期計画 東京都地球温暖化対策

(単位：t-CO₂)

項 目	第2期
基準排出量	7,429
削減義務の値	17% 減

対象施設：八王子ラボラトリーの一部（第1・第2ラボ）、日野管理棟

東京都地球温暖化対策は、第1期の5年間が終了し2015年より新たに第2期がスタートしました。

エスアールエルの第2期基準排出量は、7,429t-CO₂になりました。

第2期計画期間(2015～2019)の年間排出量は、6,166 t-CO₂/年以下に抑えることが義務となります。

②東京都地球温暖化対策

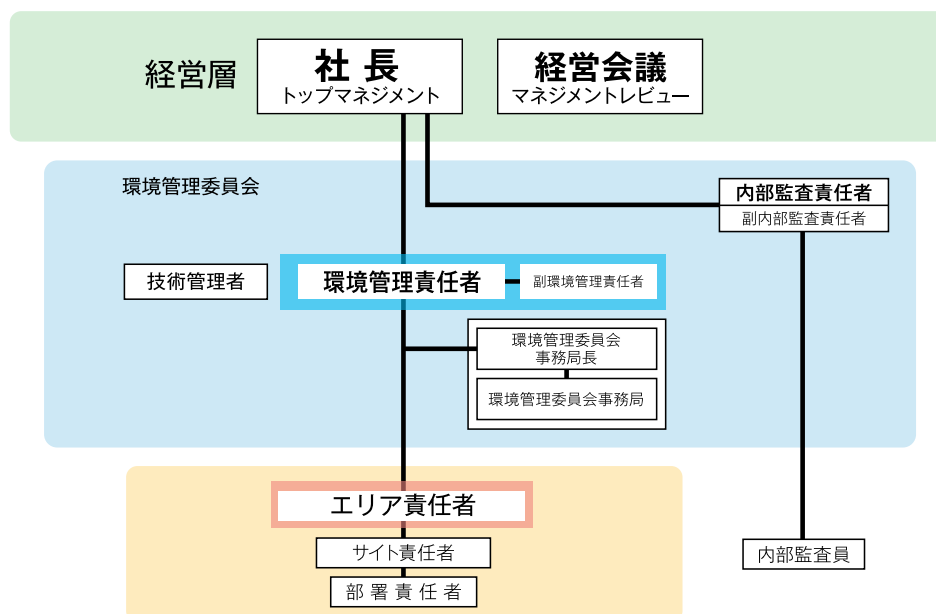
項 目	第2期計画基準排出量	2015年度
CO ₂ 排出量	7,429	5,595
対基準排出量比	—	24.7% 減
削減義務の値	—	17% 減

環境法規制・条例への対応

環境に関連する法規制・条例は、定期的に確認し、最新版としています。法遵守状況は、各エリア別に、定期的に確認し、環境管理責任者に報告しています。2015年度の遵守状況は、すべてのエリアで良好な結果でした。

エスアールエルの EMS 組織体制

エスアールエルでは、EMS を実施するための組織体制を定めています。環境管理委員会では、定期的に EMS の運用状況の報告、環境管理責任者からの指示がなされます。マネジメントレビューは、年度の報告をもとに経営層から継続的改善の指示がされます。



2015 年度 環境への取り組み

ISO14001の内部監査

内部監査は、全部署への「自己点検チェック」と3年に1回の「実地監査」からなっています。
2015年度の実地監査は、74部署(検査:47,営業拠点:27)を実施いたしました。大きな指摘もなく、EMS活動が順調に行われていると判断されました。

ISO14001 外部審査

ISO14001の認証維持のため、外部認証機関による「定期審査」が実施されました。2015年度の審査は、17サイトで実施されました。(本社,検査ラボ:4,営業拠点:11)審査結果は、軽微な指摘はあったものの、全体として良好な結果でした。指摘内容を今後の環境活動に生かし、向上を目指してまいります。



2016年度の活動について

2016年度の活動は、2015年度の目的・目標の実施状況、サイトの変化、エネルギー使用量も踏まえ、下記のように決定し、活動してまいります。

<EMS 活動予定>

目 的	目 標	対 策
エネルギー効率の向上	電気使用量 1.8%の削減	運用対策: 2015年度対策の継続実施 設備対策 (高効率機器, 省エネ機器の導入等)
車両燃費の向上	車両燃費 1%の向上	運用対策: エコドライブの実施 設備対策 (低燃費車両への入替の継続)

<その他の EMS 活動予定>

項 目	内 容
環境教育	基礎環境教育, フロン排出抑制法, サプライチェーン (Scope3)
行政への報告 (法令遵守)	省エネルギー法, 東京都地球温暖化対策 (第2期) の報告

クリーンディーゼル車の導入(旭川業務拠点)

低燃費車への入れ替えが100%完了した中で、業務上走行距離が長い車両について、クリーンディーゼル車両への入れ替えを始めました。燃費向上はもちろん、軽油によるコスト低減もあり、今後の効果に期待が持てるところです。



インバーター制御の導入(八王子第3ラボラトリー)

空調用冷水発生装置は、大型プロペラ型ファンにより、外気で冷却しています。2016年4月に、プロペラ型ファンの駆動をインバーター制御に変更し、電力使用量の削減効果、騒音低減効果(超低周波数音)が得られました。



ISO 14001 認証事業所 MAP

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	福岡ラボラトリー
	2	福岡西ラボラトリー
	3	北九州ラボラトリー
	4	長崎ラボラトリー
	5	佐世保ラボラトリー
	6	熊本ラボラトリー
	7	大分ラボラトリー
	8	宮崎ラボラトリー
	9	出水ラボラトリー
営業拠点	1	福岡
	2	福岡西
	3	北九州
	4	長崎
	5	佐世保
	6	熊本
	7	大分
	8	宮崎
	9	出水
	10	延岡
	11	久留米
	12	佐賀
	13	天草
	14	鹿児島
	15	沖縄

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	北海道ラボラトリー
	2	札幌ステーションラボラトリー
営業拠点	1	札幌
	3	旭川
	4	釧路
	5	函館
	6	青森
	7	盛岡
	8	秋田
	9	仙台
	10	山形
	11	福島

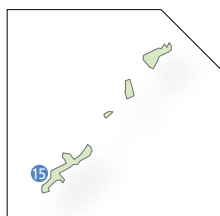
区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	金沢ラボラトリー
	2	静岡ラボラトリー
	3	愛知ラボラトリー
営業拠点	1	金沢
	2	静岡
	3	小牧
	4	沼津
	5	名古屋
	6	岡崎
	7	岐阜
	8	津
	9	浜松
	10	富山

区分	No.	サイト名
営業拠点	1	岡山
	2	福山
	3	広島
	4	松江
	5	山口
	6	高松
	7	徳島
	8	松山
	9	高知

区分	No.	サイト名
新宿本社	1	新宿本社
ラボラトリー	2	第1・第2八王子ラボラトリー 第3八王子ラボラトリー 遺伝子・染色体解析センター MUQSラボラトリー 白野管理棟 情報物流棟
	3	羽村ラボラトリー
	4	相模原ラボラトリー
	5	練馬ラボラトリー
	6	新宿ラボラトリー
	7	中央ラボラトリー
	8	千葉ラボラトリー
	9	白井ラボラトリー
	10	川崎ラボラトリー
営業拠点	2	八王子
	4	相模原
	5	練馬
	6	新宿
	7	中央
	9	白井
	10	川崎
	11	品川
	12	足立
	13	横浜
	14	厚木
	15	千葉
	16	さいたま
	17	川越

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	関西ラボラトリー
	1	大阪
営業拠点	2	豊中
	3	堺
	4	京都
	5	滋賀
	6	神戸
	7	姫路
	8	奈良
	9	和歌山

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	宇都宮ラボラトリー
	1	宇都宮
営業拠点	2	長野
	3	上田
	4	甲府
	5	新潟
	6	前橋
	7	佐野
	8	水戸
	9	土浦



編集後記

エスアールエルにおける「環境報告書」は、EMS 活動の紹介を中心としてなるべく平易な表現でこれまでお伝えしてきました。今回6回目の発行を迎え、その間には東日本大震災による電力供給停止、温暖化による自然災害、一方ではハイブリット車やLED等の省エネ技術の普及、世界では、再生エネルギーへの転換、COP21によるパリ協定批准など、環境をキーワードとして大きな動きが起こっております。

エスアールエルでは、「環境報告書」を発行し、広く社会の皆さまに環境活動の継続的実行を表明するとともに、さらなる推進をしていきます。

最後になりますが、2016 年度環境管理責任者に任命され、今後のエスアールエルにおける環境保全活動で、「常に何ができるのか、何が必要なのか」を自問しながら、推進していきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

環境管理責任者 岡戸 隆昌

発 行 者：株式会社エスアールエル 総務部
本 社 住 所：〒163-0409 東京都新宿区西新宿二丁目1番1号
発 行 年 月：2017 年 1 月
ホ ー ム ペ ー ジ：<http://www.srl-group.co.jp/>
お問い合わせ先：TEL 03-6279-0900 (大代表) FAX 03-6279-0971





株式会社 エスアールエル

